

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30番地		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigvosoCd=0372500496-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成24年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、胆沢高齢者総合福祉施設ぬくもりの家の併設施設として開設11年目を迎えるにあたり、10年目の振り返りとして、地域密着型サービス外部評価結果や第三者評価受審結果から見えた課題解決に向けて取り組んでいます。
 法人の理念「優しく、温かく、共に生きる」の基、ぬくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて定着が図られ、地元幼稚園、小学校、個人、団体他により、地域交流スペースにおいては展示発表や各種イベントの場やふれあいなどの交流の場となっています。
 また、保健、医療、福祉の各サービス事業所と連携を密にし「安全・安心の基本的ケア」に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奥州市の北西部、旧胆沢町の田園地帯に位置し、静寂な環境にある。旧胆沢町が整備した医療、保健、福祉が一体となった「達者の里」の一画で、市立国保「まごころ病院」、市が整備した健康増進プラザ悠悠館、広い公園、大駐車場などと有機的に連携されており、良好な立地条件にある。
 また、平成14年設立当初から特養、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、訪問介護、訪問入浴、支援ハウスを持つ高齢者総合福祉施設として整備されていることから、施設等設備面、人材育成面で多くの長所がある。更に、小学生のうちから、「高齢者との交流」を体験する独自の「里孫」制度を設けている。地域との連携についても災害時支援協力協定を締結している。また、重度化対応にも力を入れ、昨年は職員一丸となり、初めて「看取り」を経験するなど、幅広い要望に対応できる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念・方針」「ぬくもりの家基本理念・方針」「GH介護理念」を月1回全職員で唱和している。また、平成24年度のキーワード「連携と協働」「健康と感謝」「挑戦と進化」を掲げ全職員で取組んでいる。	法人全体の理念、ぬくもりの家理念、グループホームの介護理念を掲示し、唱和している。更には職員全員でキーワードを制定し、これらの理念を実践に活かすよう努めている。	独自に定めたキーワードを含めて理念は、日頃の介護実践に役立つと思慮される。職員全員が、脳裏に刻み、十分に周知していくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流では、個人・団体訪問や地域住民、地元幼稚園、小学生、里孫等の訪問を受け入れ、利用者との交流を行っている。また、地元小・中学校の運動会や学習発表会への招待や里孫とのふれあいは継続して実施している。	地域交流スペースが、住民、訪問者、近隣施設関係者らの交流拠点となっている。また、独自に設けた「里孫」が訪問し、利用者と心温まる交流を行っている。そのほか、事業所の側からも地元小学校や地域の催しに積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	達者の里構成施設研究会において、「歯肉がんとの闘い」について、医療と連携をして事例を発表し、医療関係者、地域の方々などより、発表によっての理解が得られた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所に関する事業経過報告、生活状況の報告、自己評価・外部評価、事業計画及び報告を行い、助言を頂きながら運営に活かしている。	会議構成員は家族、地域包括支援センター、区長、町内会長、児童民生委員、老人クラブのほか、地元商店も加わるなど幅広い構成で、地域住民らの意向が把握できる構成となっている。会議内容によっては消防から参加してもらう場合もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、随時関係担当者や地域包括支援センターと連携を取っている。	隣接の「悠悠館」が、奥州市保健福祉課であって、かつ、地域包括支援センターであり、廊下で連結されていることもあり、連携を図りやすい環境にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者個々の思いを尊重し、全職員共通認識で安全・安心を基本とし、目配り、気配りでもって身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束をしないケアは、職員は法人内で経験等を積み、所内研修なども行い実践に活かしている。また、外部研修会にも参加し学習している。玄関の出入りはセンサー利用をしているものの、施錠などをしないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会、出張復命会、職員会議等で聴衆や意見交換、認知症ケアビデオによる、ケアのあり方について視聴している。また、利用者の健康状態や身体の観察にも注意を払っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の日常自立支援に関して、「利用者のプライバシー保護」「コーチング研修」等を外部講師を招いて学ぶ機会を毎年行っている。情報共有と連携を図り、利用者本位のサービス提供となるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明にあたっては、利用者や家族等が理解しやすいように配慮をし、理解を得ている。また、質問等についても丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケート調査を行い、意見や苦情等について検討しサービスに反映している。家族からの要望で家族会は設けていないが、「小旅行」や「敬老会」等で集まった機会に家族と話をしている。	家族会などは結成していないが、訪問の際に個別的に家族の意見を聞き取りするほか、事業所行事の際に、多くの家族意見等を聞き取るようにしている。具体としては、家族の要望を受け、「通信」で毎回利用者の様子を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された意見や提案、要望は放置せず、運営会議等で報告し、できるだけ迅速に提案等の回答をしている。	職員会議や日常の介護などで職員意見があれば積極的に取り入れるようにしている。利用者の高齢化等により入浴介助の課題が発生した際、職員の提案により入浴用のリフトが設置された。安全第一で意見の検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の全体像や手順、留意点について、職員の育成に繋がるアドバイス、やる気を引き出し、向上に向けて努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、階層別研修、職員研修会、出張復命会を計画的に行っている。また、外部研修会等には、パート職員も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会定例会への出席や各種研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の居心地の良い生活環境となるよう、受容の態度とコミュニケーションを密にし、職員間の情報を共有しながら、安心と信頼に繋げている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族の困っていることを、ゆっくり聴いている。本人も一緒に施設内を見学し、グループホームの生活をみてもらっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターと情報を共有しながら、可能な限り柔軟に対応している。また、総合福祉施設としての特性を活かしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護理念」を実践している。畑作業や家事・季節の習わし等、様々な場面で利用者から教えられることもある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の写真を添えて、生活の様子を伝え、家族との関係も大切にし、共に支えあうように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問時は、地域交流スペースや談話コーナーを利用し、周囲に気兼ねなく過してもらおう。また、ドライブで馴染みの方と会うとか、場所に行く機会を持ち、つながりを大切にしている。	自宅の近所の方との交流や、知人、友人、親戚の方が来所されている。事業所内のあちこちに談話コーナーが設けられている他、居室内で交流されている。地域のボランティア団体による訪問もある。利用者の自宅を訪問して近所の方々と交流したり、墓参りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、職員は情報を共有し「その時のこと、その瞬間のこと」を大切にしながら関わり合っている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対しその後の相談方法や担当者について説明を行うほか、サービスの内容や事業所の変更、地域・家庭への移行等にあたり相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの個性を尊重し、生活リズムやペースを把握し、利用者の思いを大切にしたりある関わりの時間を多くもっている。	利用者を総合的に把握するためセンター方式なども積極的に活用している。家族からも聞き取りを行っており、ほとんどの方から(直接的な)聞き取りが可能である。その上で、把握した利用者の個性を尊重したケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時に家族や本人から聴取するが、全てを把握できないこともある。よってその後に聴衆が必要な場合は、家族や関係機関から聴くことがあり、これらは記録をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌への記録のほか、連絡帳を活用し情報の共有を図り、一人ひとりの生活を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス実施計画に沿って、利用者の状態、サービスの実施について各担当職員からどのような推移だったかを報告する。そして、職員同士が共有し連携をとりながら確認している。	ケアマネージャーが、利用者の状態や、家族・職員全員の意見を聞いて介護計画を作成するが、担当職員が中心となり、職員全員でモニタリングしながら情報の共有、連携に役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、気分行動、バイタル、受診、食事量、水分量、排泄、入浴等を個別に記録し、情報の共有を図っている。また、変化があった場合は介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ施設内にある各事業所の特性を活かした支援を行っている。また、廊下でつながっている病院や地域包括支援センター、奥州市健康福祉課との速やかな対応を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの受け入れや、地域の協力による避難訓練、区内の小学校の里孫とのふれあい等継続して交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じているが、殆どは廊下でつながっているまごころ病院(内科、外科、整形外科、歯科、リハビリ)への受診となっている。付添い等の支援も行っている。	利用者の多くは隣接の「まごころ病院」を利用している。通院の際には職員が対応している。精神科や眼科など「まごころ病院」にない診療科については、従来からの病院利用を継続するようにしている。その際の付き添いは、原則、家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、利用者の健康管理を行っている。隣接する病院の医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、PT等と気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、頻繁に職員が見舞い、状況の把握に努めている。また、家族と連携をとり主治医と話す機会を持ち、早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望で受け入れる方向で検討する。重度化した場合における対応の指針についても説明をして同意を得ている。また、利用者や家族の思いに添って、悔いのない見取りケアに努める。	昨年、ターミナルケアが行われた。対応について、事前に本人・家族に対して説明が行われており、同意を得ている。ターミナルケアについては法人全体で検討されており、マニュアルが作成され、模索しながら研修を行い、更に適切に対応するための準備も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回、全職員を対象に、AED操作と心肺蘇生法について研修を実施している。また、必要に応じて緊急時の対応や吸引機の取扱い等について指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練種別では、通報召集訓練、通報訓練、消火訓練等、の訓練を行っている。内、年1回は地元部落の協力隊との訓練を実施している。なお、地元部落とは防災協定を締結しており、有事の際に協力がスムーズに得られるよう体制を図っている。	災害対策は、設備面ではスプリンクラー、非常通報装置、自家発電装置などが整備され、訓練も通報召集、通報と避難訓練を実施し、うち一回は地元住民と合同の避難訓練を行っている。特に、地域とは、避難に際し住民の力を借りることの代替として、事業所は、避難場所や備蓄品を提供するなどの内容の「災害時支援協力協定」を締結している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」の実践と「利用者のプライバシー保護」「職員としての倫理」の研修をし、一人ひとり思いやりのある心配りに努める。	法人全体で、独自の「禁句集」を作成し、利用者に対する言葉遣いに気を付けている。プライバシー保護に対する研修を行っている他、理事長自ら倫理についての研修を行っている。利用者に対してトイレ利用、入浴介助等、羞恥心に対しての配慮もなされている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(習字、生け花、裁縫等)は利用者がその時の思いで自由に選んで楽しんでいる。また、献立についても希望を聞く。外食の際には注文の食事を選択してもらう。ほか、日常生活では、自分の出来る範囲で掃除等進んで行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分で落ち着かない時は、職員と一緒に外へ出て散歩とかに付添っている。日常生活においては決まった生活パターンはなく、その人らしい生活の支援に努めている。また、地元顔なじみの理容師が来て理髪を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思い出のある衣類を本人と選びながら最大に活かしている。また、判断に迷っているときは、一緒になって本人が満足となるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて野菜作りをしており、収穫までの作業を利用者から教わりながら、また、調理のときは一緒に行うなど、利用者の状態にあった行動を共に行っている。食事の準備や後片付けも継続的に行っている。	献立は、特養ホームの方で、作成を担当しているが、添え物などは利用者の希望を取り入れている。食材に事業所の畑で作った野菜を使ったり、(利用者は)職員が調理する際、簡単なお手伝いや、下膳のお手伝いをするなど、「食べること」を皆で楽しめるような支援が行われている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食時チェックし記録している。その時の状態で摂取量が不足の場合は代替食や刻み食、トロミをつけるなど工夫している。また随時、管理栄養士に検食簿を提出し助言を得ている。今年は猛暑が続いたので心配りを欠かさなかった。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食後のうがいと就寝前の口腔ケア・義歯洗浄の支援をし、清潔に努めている。また、毎回食前の嚥下体操を実施し誤嚥の防止に努めている。義歯調整や治療は隣接の、まごころ病院歯科に受診している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを排泄チェック等で把握し、重度者も含めトイレ誘導での排泄を行っている。	個人ごとに「排泄パターン表」を作成して、排泄チェックを行い、さりげないトイレ誘導を行っている。トイレ使用に際し、介助の必要はないが、見守りは行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、乳酸菌飲料を提供している。献立には日常的に野菜を取り入れた食事としている。また、体操や散歩への働きかけを行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は主に午後に行っているが、希望により夕食後に入る利用者もいる。また、利用者の重度化により電動リフトを導入し、安全安心の入浴介助を行っている。	週に3回か4回程度、午後から入浴している。一部の方は夜間の入浴を希望しており、対応している。広い浴室にリフトが設置されており、転倒等の危険が少なくなっている。浴槽内が深い、「すのこ」の使用により、深さを調節している。入浴拒否の場合には、清拭で対応したり、時間を置いて入浴を勧める等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は落ち着いて眠れるように、利用者それぞれの生活習慣を把握し、日中の過ごし方についても寄り添う時間を多く持つなど、普通に近い家族的な生活となるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容が把握できるように個別のファイルで確認している。また、薬は個訪包にし氏名、服用時間、薬剤名を印字してもらい間違いのないように行っている。服薬時は職員複数で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意な仕事や趣味、希望する楽しみ等を普段の会話の中から抽出している。特に昔の行事、遊び、食べものの作り方等で教えてもらうことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の運動会、歌謡ショー、四季の景色見物など利用者の希望にそって外出を行っている。当日のスタッフで不足の場合は総務課やボランティアの応援を得て実施している。	隣接して広い公園があり、スーパーも徒歩で行ける距離にあるなど恵まれた環境にあることから、日常の外出は積極的に行っている。また、年間行事として、地元や小学校の行事に参加するほか、事業所内の地域交流スペースに舞台や照明装置があるので、地元住民の憩いの場となっており、事業所に居ながらにして、多くの人と出会う機会も得られている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機、移動販売、公衆電話、施設内の喫茶は自由に利用している。また、利用者によって所持金管理に不安の方には職員が付添って利用者の希望に応じている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者には、確実に掛けられるように付添うが会話中は離れる。郵便のやり取りも職員が確認をするなど支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所にはみんなでくつろげるソファを置いて心地よく過せるよう工夫している。傍には柱時計があり懐かしさを感じてもらっている。また、廊下等は、歩行の妨げとならないように整理整頓に努めている。	グループホーム自体の共用スペースは、十分な広さがあって、畳敷きの小上がりや、ソファを置く等々設備が整っているほか、「地域交流スペース」はイベントもできる共用スペースとなっており、楽しみごとが出来る空間でもある。喫茶コーナー、舞台や照明装置などがあり、地域住民も利用するなど、交流拠点ともなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが3ヶ所あり、のんびり、ゆったり、その時の気分で過ごすことができる。植物への水やりや、金魚に餌を与えるなど、独り、または数人で思い思いに過している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込みは自由、ベッド使用も自由としている。本人が心地よく過せるよう配慮している。	居室は、冷暖房完備で明るい部屋となっており、ベットが備え付けられている。利用者の持ち込みは自由で、それぞれ使い慣れたタンスや、身の回りの所持品を持ち込んでいる。見学した居室では、一枚だけ畳を持ち込み、自室作りがなされていた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー使用、オール電化。キッチンを利用者も使える適度な高さで使いやすい。			